

『第46回奈良県中和病診連携の会』 実施報告

日 時：2023年1月28日(土) 14:30~17:00

配信場所：大和高田市立病院 放射線治療棟 大会議室

参加者数：63名(院内：13名)

内容

今年度2回目となる奈良県中和病診連携の会を開催しました。前之園診療所院長、前之園晃幸先生の開会の辞で始まり、一般講演2題の座長は中井記念病院院長、中井謙之先生に務めていただきました。特別講演の座長は春日医院院長、春日宏友先生に務めていただき、奈良県立医科大学感染症センター教授の笠原 敬先生より「感染症診療感染対策のトピックス」をご講演いただきました。一般講演1題目は感染症内科医長の米本仁史先生より「COVID-19 罹患後の遅発性の器質化肺炎」をテーマにご講演いただきました。コロナ陽性患者さんの治療経過と罹患後の経過を踏まえ、数ヶ月後に器質化肺炎になった症例報告をされました。

2題目は、感染管理認定看護師の里内正樹さんより「COVID-19 を踏まえた感染対策の基本」をご講演いただきました。認定看護師としての活動報告と、感染の基本となる話をされ、日常業務における感染対策を振り返る機会となりました。



特別講演では3年前に新型コロナウイルスが認識されてからの経過を振り返りながら、当時の状況や対応を詳細にご説明されました。新型コロナウイルス感染者が奈良県で初めて認められ、奈良県から病床確保の命令があり、本来特定機能病院は感染症等の対応を率先して受け入れないが、診療体制を構築し、新型コロナウイルスに対応されました。ワクチン接種では研修医の派遣を全国で最初に行い、そこから全国に広がったそうです。今後感染症分類で5類に移行しても、救急搬送困難の解消は見込まれず医療現場の疲弊している状況を常々発信していると話されていました。これからは感染対策と同時に教育が必要であり、感染症との戦いはまだまだ続くと言われたことを受け、身の引き締まる思いでした。